

# 東南アジアの自然と農業研究会

第 78 回研究会ご案内

新年度がスタートし、新たな気持ちでお過ごしのことと思います。今回は、東京農業大学総合研究所の 宮浦 理恵 氏に下記のようにご報告していただきます。お忙しい時期かと存じますが、皆様の多数のご参会をお待ちしております。

## 記

日 時 : 1997 年 4 月 25 日 ( 金 ) 16:00 ~ 18:00  
会 場 : 東南アジア研究センター 東棟 2 階第一教室  
京都市左京区下阿達町 46  
川端通り荒神橋東詰め  
話題提供者 : 宮浦 理恵 氏  
話 題 : 「インドネシア高地における  
集約的野菜栽培の展開と土地利用変化」

熱帯高地は気温が低く、熱帯性の作物を栽培するには不利な環境にある。西洋の植民政府は東南アジアの都市近郊の高地を避暑地として開発すると同時に、温帯野菜栽培を導入した。それまで熱帯アジアの農民が食することのなかった温帯野菜が「商品」として栽培されるようになったのである。

現在では、人口増加と食料需要の多様化に伴い、古くからの産地のみならず新たな産地が各地に形成され、温帯野菜栽培は急速に発展している。同じ野菜を栽培していても、地域の自然・歴史・社会的背景によって産地ごとに栽培技術や土地利用は異なった様相を呈する。

本報告では、インドネシアで最も早く温帯野菜が導入され、現在最大の生産量を誇る西部ジャワ州チアンジュール県チパナス地域をとりあげ、2年間の定着調査に基づき、栽培技術・土地利用の歴史的な変容と局所的な技術分化について考察する。

問い合わせ先：京都大学農学部熱帯農学専攻  
松田正彦(Tel 075-753-6374)  
京都大学東南アジア研究センター  
田中耕司 (Tel 075-753-7307)